

令和6年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立小川高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 副校長、経営企画室長、教務主任 計3名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、教務部主任、生徒保健部主任、進路部主任、1学年主任 計7名
- (4) 協議委員の構成
大学教授、近隣中学校長、自治会代表、PTA会長、保護司、同窓会代表 計6名

2 令和6年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他

第1回 令和6年5月17日（金）内部委員7名、協議委員4名

- ・協議委員委嘱、委員紹介、評価委員委嘱
- ・学校経営計画
- ・各分掌・学年の組織目標、目標達成のための具体的な取組、意見交換

第2回 令和6年10月18日（金）内部委員7名、協議委員6名

- ・2学期前半までの中間総括
- ・協議委員からの教育活動に対する意見
- ・学校評価アンケートの項目及び実施時期の決定

第3回 令和7年2月10日（月）内部委員7名、協議委員6名

- ・今年度の成果及び次年度への課題
- ・学校評価アンケート集計結果
- ・協議委員からの教育活動に対する意見
- ・今年度の総括

- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他

第1回 令和6年10月18日（金）内部委員1名、協議委員3名

- ・学校評価の基本方針の確認
- ・今年度の学校評価の実施に向けた、アンケート項目及び実施時期の検討

第2回 令和7年2月10日（金）内部委員1名、協議委員3名

- ・アンケート集計結果の分析及び考察、課題の整理

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点

「学校の教育活動への理解」「学校の実践と対応」の観点で実施する。

- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

- | | | | | |
|---------|-------|---------|---------|----------|
| ・12月～1月 | 全校生徒 | 対象：926人 | 回収：795人 | 回収率：86% |
| ・12月～1月 | 保護者全員 | 対象：926人 | 回収：269人 | 回収率：29% |
| ・12月～1月 | 地域・住民 | 対象：70人 | 回収：52人 | 回収率：74% |
| ・12月～1月 | 教職員 | 対象：51人 | 回収：51人 | 回収率：100% |

- (3) 主な評価項目

入学満足度、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、環境美化、家庭との連絡・相談、情報発信、体罰、教員のライフワークバランス（働き方改革）、地域など。

(4) 評価結果の概要、分析・考察 () 内は昨年度数値

①入学満足度・学校生活満足度

- ・本校への入学について、生徒は87% (91%)、保護者は89% (93%) が肯定的であった。
- ・学校生活の充実は、生徒は91% (93%)、保護者は87% (89%) が肯定的であった。

②学習指導

- ・授業方法の工夫、学力向上や進路実現との関連については、生徒より教職員の方が高く評価するという乖離があり課題である。保護者は「わからない」の回答が多く、授業公開などを通じて関心を高めていく必要がある。
- ・主体的な活動を取り入れた授業は、生徒より教職員の方が高く評価をするという乖離があり課題である。
- ・家庭学習時間は、1日1時間以上が31% (37%)、1日30分未満が49% (40%) となり、家庭学習時間が減少していることが課題である。
- ・読書率は、月に1冊以上が37% (42%) と減少した。読書活動の推進が課題である。

③生活指導

- ・規範意識(身だしなみ、生活態度、校則の順守など)については、生徒は90% (94%)、保護者は80% (90%) が肯定的であった。一方で、地域の方々は56% (84%) が肯定的であった。生徒と地域の方々の評価に乖離があり、教職員の指導が徹底されていないということが課題である。
- ・登下校のマナーは、生徒は97%が、保護者は87%が、教職員は65%が肯定的である。一方地域の方々は56%が否定的であり、厳しい目で見られている。自転車の乗り方、ヘルメット着用や交通ルール遵守など、継続的な指導が必要である。

④進路指導

- ・進路指導の充実については、生徒は86%、教職員は86%、保護者は70%が肯定的な評価である。進路相談や面談については、生徒は87%、教職員は82%、保護者は70%が肯定的な評価である。2つの質問項目とも肯定的評価は高いが、生徒、教職員が80%を超えているのに対して、保護者は70%であり、保護者に指導内容等が十分に伝わっていない課題がある。進路指導の計画、内容、面談実施等について、保護者にさらに丁寧に周知、説明していく必要がある。
- ・計画的な進路指導については、生徒は87% (89%) が肯定的な評価、保護者は81% (83%) が肯定的な評価であった。評価が下がった原因について検討し、改善策を策定する必要がある。

⑤特別活動・部活動

- ・学校行事や委員会活動については、生徒は大変肯定的である。「積極的に取り組んでいる」の回答に91% (91%) が肯定的に回答している。
- ・部活動は、全体的に肯定的な評価であるが、特に保護者が73%と肯定的である。

⑥健康・安全

- ・体調不良や怪我の対応については、全体的に肯定的に評価している。避難訓練については、保護者は「わからない」が59%と多い。訓練を実施した様子をホームページなどで公開するなど情報提供をしていく必要がある。
- ・生徒が抱える悩みへの対応は、生徒、教職員の肯定的回答が高い。

⑦いじめ防止

- ・いじめ防止への取り組みは、全体的に肯定的である。

⑧体罰

- ・体罰防止の取り組みは、全体的に肯定的である。

⑨ホームページ

- ・ホームページの閲覧は「年に数回」「見たことがない」が、生徒・保護者の過半数を超えている。同時にPRに役立っていると期待されている。学校行事、進路行事の報告、部活動の活動報告など中学校にアピールする内容を検討していく必要がある。

⑩x（旧ツイッター）

- ・x（旧ツイッター）は約半数の生徒保護者が、学校情報の発信や学校のPRに役立っていると回答している。特に中学生に興味を持ってもらえる内容を検討し、発信していく必要がある。

⑪総合的な探究の時間

- ・自己の在り方生き方を考えることができたことに肯定的な回答が78%（74%）と昨年度より向上している。昨年度、総合的な探究の時間の3カ年の指導計画を見直し、今年度から実施した。その成果が出ている。
- ・課題を発見し解決していく力を身に付けることに肯定的な回答が81%であった。昨年度の質問項目に無いため比較できないが、高い肯定度である。昨年度、総合的な探究の時間の3カ年の指導計画を見直し、今年度から実施した。その成果が出ている。

⑫教職員のライフワークバランス（働き方改革）

- ・ライフワークバランスの実現については、教職員が肯定的なのは59%（46%）であった。

⑬地域

- ・小川高校の生徒が地域の行事に参加していることを100%の方がご存じである。
- ・小川高校に来校されたことがある方は98%である。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

学校評価アンケートの分析により、課題を明確にできた。学校運営連絡協議会での協議委員の指摘、アドバイスを今後の取り組みに活かしていきたい。

特に、アンケート結果によれば、総合的な探究の時間について、課題を発見し解決していく力を身に付けることに81%という高い肯定的な回答を得た。昨年度、総合的な探究の時間の3カ年の指導計画を見直し、今年度から実施した成果が出ている。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

授業の工夫について、生徒と教職員の捉え方に乖離があり（教員は工夫しているつもりだが、生徒にそれが十分に伝わっていない）、そこを改善していく必要がある。

また、学校の情報発信について、HPやx（旧ツイッター）について学校のPRに役立っていると期待されているものの、閲覧回数が低いことから、内容、更新回数など改善をしていく必要がある。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 学校運営

学校評価アンケートの結果を分析したことで、本校の実態を再認識し、必要な改善を図るための手がかりにすることができた。

西部学校経営支援センター特別指定校1年目として、学習サポート委員会を立ち上げ、学習支援に関する取組を強化した。その中で、模試分析、講習の整理、卒業生チューターの導入、外部人材を活用した「小川学習計画サポート」の導入、英検の全学年実施等について、これらをさらに発展させると同時に、一層発信していく必要がある。

(2) 学習指導

授業についての生徒と教職員の捉え方の乖離（教員は工夫しているつもりだが、生徒にはそれが十分に伝わっていない）について改善するために、(1)の学校運営でも取り上げたように、学習サポート委員会の取組を推進する中で、授業力向上やICTの活用の校内研修などできるところから改善していく必要がある。

生徒の学習意欲と基礎学力を向上させ、「思考力、判断力、表現力」の充実を目指して、教材の研究やICTを用いた効果的な指導など、さらなる指導力の向上が求められていることを共通理解できた。

(3) 生活指導

遅刻や登下校のマナー、交通事故防止などの基本的な生活習慣の確立、校内環境美化を、学校全体で推進していく必要性が見いだせた。

6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 7人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数 4

そう思う	多少 そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう 思わない	分からない	無回答
4	3	0	0	0	0	0

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

職員会議 0回 企画調整会議 0回

8 その他

特になし